

【5 佐世保市 Sasebo City】



西海橋から

佐世保市では、西海市との間にかかる西海橋の周辺沿岸部をはじめ、市の中心部にあるシンボルの烏帽子岳や木場山、将冠岳、北東部の佐賀県境にそびえる国見山などから、大村湾・諫早市越しに“[北西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。大村湾の湾口の潮流を手前に、ハウステンボスや多良岳とセットで眺められるパノラマは絶景で、多良岳の長い裾野の上に波打つように浮かぶ雲仙岳のシルエット(↓)は、西海橋ならではの景観です。やや意外なところでは、ハウステンボスのシンボルタワー“ドムトールン”の地上 80mの展望室から眺められる日があります。その他、大村湾内を航行する高速船(ハウステンボス～長崎空港～時津)から、海上の雲仙岳が眺望できます。

烏帽子岳や将冠岳は、西海国立公園に指定されており、九十九島や五島列島も見渡せ、西海国立公園と雲仙天草国立公園の両方が一望できます。[雲仙岳方面](#)から本市に至る九州自然歩道は、西海橋から国見山まで市内を通っており、両公園のつながりが感じられる歩道です。

西海国立公園の主要景観のひとつとして“九十九島(くじゅうくしま)”があり、大小 208 の島々が佐世保の沖合いに並び、青い海や夕日とともに美しい景観を呈していますが、[雲仙岳の東麓](#)には“九十九島(つくもじま)”があります。これは、[雲仙岳](#)の主峰・普賢岳が江戸後期に噴火活動を活発化させていた中、寛政4年(1792 年)に強い地震を起こし、普賢岳の東にある眉山が揺さぶられて山体崩壊を起こし、その土砂が有明海に流れ込んで形成された島々です。その際、大津波が発生し、島原半島東部と対岸の熊本沿岸部で甚大な被害が生じましたが、新しく形成された九十九島は、やがて風光明媚で良い漁場・漁港として島原の町を支える存在となりました。

偶然の巡り合わせですが、その佐世保と島原を結ぶイベントが 40 年以上前から始まっています。昭和 48 年、“佐世保市から 24 時間でどこまで歩けるか”との発想でコースを検討し、やがて島原までの 105km のコースが定着して“105 ウォークラリー”となり、平成 23 年に第 38 回で終幕するも、翌 24 年には“佐世保－島原ウルトラウォークラリー”として復活し、多くの人を楽しませています。

[雲仙岳](#)の様々な表情を探しながら、佐世保市内を旅してみませんか？

●佐世保市の観光情報はこちら ⇒ 佐世保観光コンベンション協会 <http://www.sasebo99.com/>



西海橋から(拡大)